

## はじめに

本報告書は平成15年度21世紀COE研究事業「都市文化創造のための人文科学的研究」のうち、現代都市文化研究チーム所属メンバーによる東南アジアをフィールドとした調査結果をまとめたものである。この調査は「都市環境モノグラフ調査——ソフトシティの基盤的研究のための実態調査」という課題のもとに、タイとインドネシアにおいて行われた。調査の目的は、まず文化を生み出す基盤としての都市環境や都市社会の実相をとらえること、また文化景観と文化表象の諸相をとらえることにある。そして調査結果はソフトシティ創造のための源泉となる、都市文化を生み出すセンスの基盤を、環境や景観との関連で解明するための基礎的データとして利用される。この調査結果はそれゆえ文化をツーリズムの発展などに活用するための潜在的な文化資源の発見という点でも資するところが大きい。本報告書の内容は、サウンドスケープ、ビデオリサーチ、寺院壁画など、なまのグラフィックな調査資料であり、未だ漠然とした研究成果にとどまっているように見えるかもしれないが、筆者たちはこのような文化に関する基礎的データを積み重ねることによって、将来の「住みやすい都市」創造に有効なデータと知見が得られるものと考えている。なお末尾に資料として古都キャンディを事例に文化景観の政治的な利用を取り扱った文化地理学者の優れた論考の翻訳を掲載した。

調査の遂行に際しては、チュラロンコン大学、ガジャマダ大学、インドネシア国立芸術大学など、文学研究科・都市文化研究センターと学术交流協定を結んでいる諸大学の関係研究者の懇切な援助を受けた。本COE事業を通じて、都市の文化創造なかんずく大阪と東南アジア諸都市の文化創造に寄与する学問研究基盤の構築に進展が見られつつあることを喜ぶたい。

平成16年3月

山野 正彦